



[講演]

中国における日本語教育事情および日本留学の動向と課題

中等日本語課程設置校工作研究会秘書長・
上海市甘泉外国語中学教員
郭 侃亮 氏

○丸山 池田先生どうもありがとうございました。国際化担当副総長の強い意志を感じるお話だったと存じます。

これから、今回お呼びした海外からのご登壇者の方々から 20 分ずつお話をいただきたいと思います。その中でどんなことができるのかといったことも少しずつ見えてまいりますし、皆様と議論をする方向に向かってまいります。

まず、お一人目のご登壇者をご紹介します。中国からのおいでくださいました郭 侃亮先生でいらっしゃいます。郭先生は上海にある甘泉高校の先生でいらっしゃると同時に、中国の高校で日本語クラスを持っている高校のネットワークがあるんですけれども、そこの幹事をお務めでいらっしゃいます。ですので、きょうは中国の中等教育の日本語教育について広くお話いただけると存じます。では先生、よろしく願いいたします。

○郭 先ほどご紹介にあずかりました、中国から来た郭と申します。きょうは、中国における日本語教育および日本留学の動向と課題について皆さんと共有させていただきたいと思います。【スライド③-1】

まずは、きょうの発表の内容について皆さんにご紹介いたしますが、4 つに分かれています。日本教育の事情、日本教育への支援、そして高校生の留学への志向、最後に大学の受け入れ体制への期待について話させていただきたいと思います。【スライド③-2】

初めに、中国の中学校、高校の日本語教育の事情についてお話をしたいと思います。【スライド③-3】

まず、背景の 1 つとして皆さんに知っていただきたいのは、中国の大学入試

のときにいろいろな科目があることです。国語とか英語とか数学などの科目以外に、外国語の科目があり、実は英語の代わりに日本語で受験することができるようになっています。それは新しいことではなく 40 年前からすでにできたことなんです。中国の国内でも知られておらず、おとしの 2017 年、中国教育部は新しい最新版の普通高校日本語課程標準を発表し、英語以外に 5 つの多言語課程の開設が推進されています。

きょう会場にいらっしゃる徐敏民先生は教育部のもとで課程標準の審査員の 1 人として参加していらっしゃいますが、課程標準がどういうものかということ、実は全ての中国の高校が守らなければならない標準の 1 つだということで、その中にある、英語以外の、ロシア語とか日本語、フランス語、ドイツ語が高校で開設できるようになっていること、またそれが推進されているということです。それで現在一気に中国の高校が日本語ブームになっています。

現在、大学入試のときに日本語を選ぶ受験者数は、例年、全国 4 万人以上といわれていますが、今、高校で日本語を第一外国語として勉強している人の数は 20 万人以上にのぼっていると推定されています。例で言うと、去年、浙江省で 4,000 人ぐらいが日本語を選んだのですが、ことしは 8,000 人になっており、1 年で倍になっているということになります。【スライド③-4】

その中の 1 つの学校として、今、私の勤務先である上海市甘泉中学校の例に挙げますと、こちらの高校は、1972 年から日本語教育を始めた上海市の公立学校であります。1972 年といえば、皆さんも思い浮かぶと思いますが、中日国交正常化の年であり、甘泉高校は、上海の、多分、全国で一番早く日本語教育を始めた学校、中学校、高校と言われています。現在、在校生 1,500 人中 800 名が日本語を第一外国語として勉強し、その中の 40%、高校 3 年生になって卒業するときに 40%以上の方が N1 の資格を持っています。先ほど丸山先生もご紹介されたと思いますが、日本語能力検定試験には N5 から N1 の 5 段階があって、N1 が一番高いレベルといわれています。ほかの学校もいろいろありますが多分、大学入試は N3 レベルから N2 ぐらいといわれているので、少なくとも N3、N2 ぐらいには達しているといわれています。【スライド③-5】

現在使われている教科書としては『標準日本語』、そして立教大学の丸山先生と華東師範大学の徐敏民先生と一緒に参加して編集された『新界標日本語』という教科書も使わせていただいております。【スライド③-6】

どんな授業をしているかについて、私の担当していたクラスの例で紹介させていただきます。まず基礎的な授業、例えば、単語の暗記とか、読解、聴解の授業のほか、キーボードの入力の練習、そして、競技カルタ、日本小説を読むとか、いろいろな基礎的な知識を教えるのは高校 1 年生のカリキュラムです。【スライド③-7】

そして、能力育成が今、中国の教育の中でもすごく重要視されているので、高校 2 年生になるとだんだんアフレコ大会、スピーチコンテスト、そして中日通訳の授業、あるいは日本文化を体験する授業を設けます。また、将棋とか、お寿司を作るとか、いろいろな授業を生徒に体験させます。【スライド③-8】

そして最後に、研究課程といいます、高校 2 年生の後半、そして高校 3 年生になると、日本留学を目指す子もいますので、日本語の論文購読とか、日本留学試験の勉強とか、そして日本の高校生とのテレビ会話、VR 技術を使った授業とか、日本語で小説を書く練習をさせました。日本語で小説を書かせる授業は 4 年前から始めたんですけども、最初、高校生は自分には無理だと言う人が多かったのですが、私のクラスの 24、25 名の生徒たちに書かせたら、半年で 10 万字の日本語の小説、リレー小説ができたということがあるので、やっぱり高校生の想像力はすごく、私から見ると驚くものであります。【スライド③-9】

次、2 番目の日本教育への支援というところに入ります。【スライド③-10】

私のもう 1 つの所属している団体があります。中等日本語課程設置校工作研究会、略称、中等日本研究会という 2011 年に立ち上がった団体で、今は中国の中学校および高校に日本語教育の支援を提供する団体です。創立された当時は民間の団体だったんですけども、今は上海市の教育委員会の管轄のもとで、非営利的かつ公的な団体となっています。

今、この研究会に入っている学校は全国で 67 校ですが、全て日本語を第一外国語とした教育が整っている学校であります。ただしこの 67 校というのは中国の日本語教育がある学校すべてではなく、日本教育がある学校は、今、多分 600 校以上があると言われていています。ただし、始まったばかりの学校が多いということなので、今研究会に入っている学校は比較的日本教育の歴史があるという学校が多いです。【スライド③-11】

ここで全体的な分布のほうを見ていただきますと、昔は東北地域が一番多いといわれていましたが、実は今、東北地方はすごく減っています。昔の 10 分の 1

ぐらいに減っていて、現在盛んになっているのは、経済的に豊かな上海、江蘇省、浙江省、そして広東省などで、昔の10倍ぐらいに増えているといわれています。

【スライド③-12】

研究会の主催でいろいろな活動をしています。日本教育の研修活動とか、これは日本のカシオという企業のご援助のもとで行われたスピーチコンテスト、全国の中学生、高校生スピーチコンテストです。そして、日本語の先生の模擬授業、公開授業。さらに、日本の国際文化フォーラムという団体のご支援のもとで行われた中国の校長先生と日本語の先生の研修活動など、いろいろ行われています。【スライド③-13～16】

もう1つちょっと皆さんのお手元の雑誌の1ページ目に載っている写真なんですが、これは去年の10月、中国上海で行われた研究会の第8回総会の写真なんですが、そこには在上海日本国総領事館の福田領事もいらっしゃって、立教大学の丸山先生もいらっしゃいました。全部で180名の校長先生や先生、そして生徒たちに参加していただきました。【スライド③-17】

総会においては、高校生の基礎クラスについてのシンポジウムがあったり、各校長先生や日本の大学の専門家が一緒に留学のことについて検討したりします。これは立教大学の丸山先生の写真です。そして、中等日本語研究会はいろいろな高校生向けの日本教育の本を出版しています。これは中国で初めて出版された日本語留学試験の単語集ですが、また、中国国内の大学入試の日本語模擬問題などについてサポートさせていただきます。【スライド③-18～22】

皆さんの手元に持っている『中等日本語研究』という雑誌は、正式で出版物ではないんですが、年に2回発行する内部資料ということなので、全国の中学校や高校に情報提供という目的で、いろいろな事業の活動を報告させていただいております。【スライド③-23】

では、3番目に入ります。【スライド③-24】

多分、皆さんが一番関心を持っている、どんな高校生たちが日本に留学する意向、意志があるのかというのを、これから説明させていただきたいと思います。

まずは、全体的な数を見ていただきますと、2018年5月1日現在、日本に滞在する留学生の数は229.8万人に達しています。ここから日本の30万人計画をもうすでに達成していると言えるんですが、その中で中国人留学生が一番多く、11.4万人にのぼっています。

ただし、面白いことに、日本語学校に在籍している生徒の中では最も多いのは中国人ではなく、ベトナムの留学生だそうです。一番多かった中国の留学生は日本語学校に通わず、どうやって日本の大学に入ったかというのを、後ほど説明いたします。**【スライド③-25】**

まず、日本語を学ぶ高校生の進路について見てみますと、私の勤めている甘泉外国語中学は、実はほとんどは中国国内の大学に進学をしています。日本語専攻を選ぶ子は5%ぐらいいますが、それは、3年間勉強したあと、もっと通訳の勉強とかをしたいという子なんです。ほとんど日本語の専攻ではなくほかの専攻を選び、日本語を諦めてしまったという子が多いです。日本に留学する学生は、甘泉外国語中学の場合わりと多く、毎年20%、つまり20人ぐらい日本に留学していますが、全国から見ると、やはり圧倒的に多いのは中国国内の大学に進学するケースです。

日本語を勉強している子はほとんど中国の国内の大学に進学した理由について私が考えているのは2つあります。まず、日本の大学についての情報はまだ少ないことです。日本に留学したいですけれども、情報をどこから聞いたらいいかわからないという状況。もう1つは、進学の高壁が高いということです。先ほど池田先生がおっしゃったように、ほとんど今、EJU、日本留学試験を基準としていますが、今、中国の大陸ではまだEJUが導入されていない状態ですし、受けないと入れないというのがちょっと難しい点になっています。**【スライド③-26】**

そこで、1996年から2018年間の甘泉外国語中学の日本に留学に行ったデータを皆さんにちょっとご紹介したいと思います。左側は国公立大学、右側は私立大学なんです。先ほど池田先生の話にも出たように、圧倒的に多いのは立命館アジア太平洋大学。その原因はなぜかという、実はAPU大学は1997年に甘泉外国語中学とすでに協定校関係を結んでいて、当時は本当に日本の大学の情報といったらAPUしかないみたいな感じでしたので、毎年10名、20名ぐらい志願者が出て、龍谷大学とか城西国際大学も同じようなルートがあるから応募者数が圧倒的に多かったです。今はいろいろなルートができていて、現地入試とかほかの大学との指定校関係もできているので、ここ近年でいうと、わりと国公立大学に進学する子が増えてきてます。

もう1つ見ていただきますと、今、赤い枠で囲まれている学校は海外指定校推薦か現地入試のルートができていてる大学です。立教大学の場合でいうと、今甘

泉の卒業生3名が在籍しています。そのうちの2名は指定校推薦という制度を活用して、異文化コミュニケーション学部に入っています。もう1人は、もともとは別大学に入っていたんですけども、他大学をやめて自分で一般入試を通して、今、文学部に入っています。【スライド③-27】

日本語を履修する学生たちが関心を持つ専門を見ていきますと、一番と言えば、経済や経営などです。中国では就職に強いすごく実用的な専門といわれているからでしょうか。次は教育、社会、異文化交流。最近は、実は音楽や技術などの勉強がしたいという学生も急上昇しています。4番目、5番目は、人気がないというわけじゃないんですが、難易度が高いといわれている、工学、理学、医学です。これらを勉強したい子は言葉の勉強をしなければならない上に、数学、理系の勉強しなければならないなりません。そういう意味では、昔は少なかったんですけども、今は法律や建築など、そういう高度な勉強ができるようになった生徒が増えているので、これからは増えるんじゃないかなと考えています。文学は、実は前は結構人気だったんですけども、今はちょっと就職的に厳しいといわれているので、逆に人気は落ちているんじゃないかと感じています。【スライド③-28】

来週29日は、中国から来た高校生が立教大学を見学します。いろいろな活動をしているので、日本留学を目指している子は少なくないんじゃないかなと考えております。【スライド③-29】

最後に、あと5分間ぐらいありますが、大学の受け入れ体制への期待を述べさせていただきたいと思います。【スライド③-30】

まず、多分、皆さんご存じの方が多くと思いますが、日本の大学に入学する最もよく知られている3つのルートを紹介したいと思います。まずは統一試験です。中国の場合は、いろいろな仲介業者があって、日本語学校に紹介してもらって、日本留学試験に参加して学内選考を通過していきます。これは一般的のルートなんですけれども、今増えてきているのは、推薦入試です。指定校推薦プラス現地入試の形をとっている学校が増えてきています。現地入試の場合指定校推薦は必要ないんじゃないかなと思う方もいらっしゃるかと思うんですが、その理由は後ほど説明いたします。【スライド③-31】

時間的に見ると、一般入試だと、中国は6月に卒業するので、日本の大学に行くと、少なくとも1年から2.5年ぐらいかかる、つまり日本の大学が募集し

ているのは、いわゆる浪人の子が多いということが現状です。ただ、推薦入学とか現地入試だとすると、6月とか終わって9月から特別聴講生とかの形で受け入れていただいて、そのままから、0～0.5年で入れるようになっていきます。**【スライド③-32】**

受験生の立場から見ると、統一試験は、メリットからいうと、国公立大学を受験できるし、選択肢が多いということになりますが、デメリットから見ると、費用が高い、時間が長い、難易度が高いといわれています。推薦入学の場合、確かに費用も少ないし時間も短いですが、でも、私立大学しか受験できない。しかも選択肢が少ない。全ての学部がオープンしているわけじゃないので、そういう問題点も抱えています。

今すごく人気というか流行っているのが現地入試なんですけれども、今、国公立大学も受験できるようになっていて、しかも費用も低く、選択肢も多いです。ただ、やっぱり推薦入学と比べると難易度が高いのは仕方ないと思われれます。**【スライド③-33】**

一方、日本の大学の立場からちょっと述べさせていただきますと、一般入学というのは、手続は今までどおりやっているのですが、そんなに面倒くさくないんですが、短所として、宣伝が難しいことが挙げられます。また、競争が激しい。なぜかという、例えば、今、立教大学が海外宣伝に行ったとしても、じゃあ今からどうやって受ければいいんですかと言われても、応募できるのは一年や二年後になるので、ちょっと宣伝が難しいです。ただ、推薦入学だとすると、宣伝効果は高いんですが、試験がない推薦制度もあるので、募集した学生の質がちょっと心配という声もあります。推薦入試、推薦プラス現地だとすると、宣伝効果もあるし、優秀な現役生も応募できるんですけども、ただ、コストが高いというのはどんな大学でも抱えている問題点です。例えば、改めて出題しなければいけないし、海外に何度も行かなければいけないというのはあります。**【スライド③-34】**

いろいろな大学からしていただいていることなんですけれども、実は、今、大阪市立大学を初め、筑波大学とか、大阪大学もみんな出前講義を実施しています。中国の高校に日本語の大学からの教授先生に来ていただいて、そして生徒たちに大学の授業をしていただくという形は、すごく宣伝効果があると思います。**【スライド③-35】** 説明会を積極的に行うこともお勧めいたします。早稲田大学は毎年、上海でそういった大規模な進学説明会を行われていますが、その場合、い

ろいろな問い合わせとかができるかと思います。今、現地入試の規模を拡大している中で、20校以上の日本の大学がすでにそういった現地入試の実施、あるいは検討をしていると思います。【スライド③-36、37】

最後に、現地入試の問題点について、3つだけ皆さんにお伝えしたいと思います。すごく大事なことについてですが、あまり知られていないことなので、これからもし現地入試をご検討いただくときに気をつけていただきたいと思います。

まずは、募集範囲を指定校に絞らないと中国の法律に触れる恐れがあるということあまり知られていないんです。今は、大学によってはみずから中国に行って宣伝して現地募集をしている大学もありますが、実は中国の法律では許されていないことです。それは日本の大学が直接に中国の高校生を勝手に取ってしまうことになってしまいます。ただし、指定校推薦、10校とか20校、30校でも、指定校推薦、限定された学校から採った生徒だったら許されるんですけども、募集範囲を限定しないとちょっと法律違反になります。

もう1つ、今、留学生も増えている中で、仲介業者も増えてきているんですけども、「いい生徒を紹介しますから会費とか払ってください」と言われることもあるかと思うんです。実は紹介してくれる子は半年とか1年間の付け焼き刃の授業で日本語を叩き込んで、紹介してくれる子はすごく質が良くない子が多いんですね。それで、生徒の質が悪いんじゃないかなと思ってしまう大学はあるんですけども、それはちょっと残念です。

最後に、言いたいことなんですけれども、今まで国際化とか、やっぱり海外募集とか行くと、英語コースをメインにしている大学が多いと思います。外国人留学生のニーズに合わせて授業を調整したりしているんですが、確かにそういう必要はあると思いますが、もう少し日本語を勉強して日本文化を愛している生徒たちにチャンスを与えてほしいということ言いたいんです。生徒に無理やり合わせる必要はなく、もう少し東洋文化の魅力に自信を持って、こちらの授業についていける生徒をいかに募集することを考えることは大事かと思います。、現在の中国の高校生では、20万人の日本語を第一外国語として勉強している数があるので、うまく宣伝や募集をすれば、優秀な志願者はいっぱい来ると思います。【スライド③-38】

すみません、ちょっと長くなりましたが、以上、私の発表でございます。【スライド③-39】

○丸山 郭先生、ありがとうございました。

【スライド③-1】

中国における日本語教育事情 及び日本留学の動向と課題

(中国) 中等日本語研究会 秘書長 郭侃亮

立教大学日本語教育センター
国際シンポジウム2018

【スライド③-2】



一、日本語教育事情

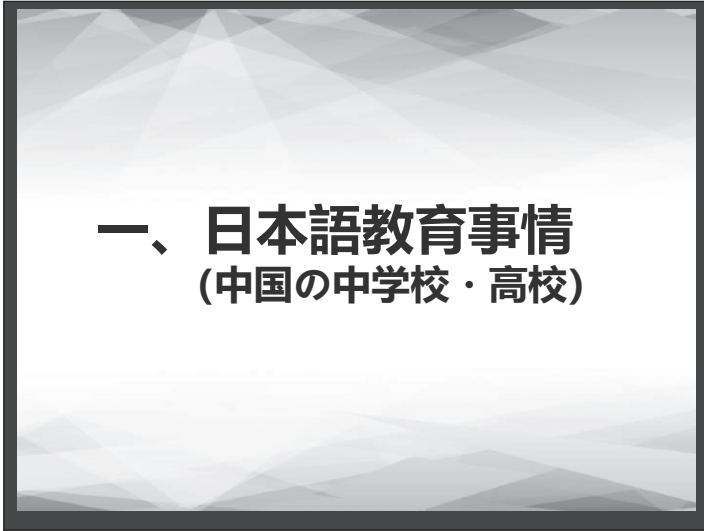
二、日本語教育への支援

三、高校生の留学への志向

四、大学の受け入れ体制への期待

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-3】



【スライド③-4】

一、中国日本語教育事情

近年の高校日本語ブーム

中国の大学入試の時に外国語の科目として、日本語を選ぶことができる。

2017年で中国教育部は最新の《普通高校日本語課程標準》を発表し、日本語など六つの多言語課程の開設を推進している。

毎年大学入試の時日本語を選んだ受験者数は全国で4万人以上に達し、現在高校での日本語学習者数（第一外国語が日本語）は20万人以上と推定される。

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-5】

一、中国日本語教育事情

上海市甘泉外国語中学




- ▶ 1972年からの日本語教育を始めた上海市公立重点中高一貫制学校。
- ▶ 現在学校で日本語を学んでいる生徒は800人を超え、卒業生の40%以上はN1レベルに達する。

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-6】

一、中国日本語教育事情

日本語授業で使っている本



標準日本語、新界標日本語など（高校から日本語を学ぶ人向け）


(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-7】


一、中国日本語教育事情
高校日本語授業の内容

“基礎知識”


- 単語暗記コンテスト
- 読解や聴解の授業
- 日本高校生との手紙交換
- 日本人先生との会話練習




朝の朗読




キーボード入力訓練



競技カルタの体験



川柳の指導



日本小説の鑑賞


(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-8】


一、中国日本語教育事情
高校日本語授業の内容

“能力育成”


- アフレコ大会
- スピーチコンテスト
- 日本の文化研究
- 中日通訳の授業




日本語スピーチ大会




研究課題の発表



日本の将棋体験



日本語アフレコ大会



日本の寿司を作る

(中国) 中等日本語研究会


【スライド③-9】


一、中国日本語教育事情


高校日本語授業の内容


“研究課程”


- 日本語の論文講読
- 日本留学試験の勉強
- 日本への見学旅行
- 日本大学の出前講義


大学入試の模擬面接


日本の高校生とのテレビ会話


日本語で小説を書く


VR技術の体験


日本の大学生との交流

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-10】

二、日本語教育への支援

【スライド③-11】

二、日本語教育への支援



中等日语课程设置校
工作研究会

「中等日语课程设置校工作研究会」
(略称: 中等日本語研究会) は2011年
で創立、中国の中学校および高校に日本
語教育の支援を提供する非営利的かつ公
的な団体である。

現在全国**67**校の会員校、すべて日本
語を第一外国語として開設している中学
校、高校。

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-12】

二、日本語教育への支援



会員校の分布

華東	25所
華南	12所
華中	10所
東北	9所
華北	4所
西南	4所
西北	1所

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-13】

二、日本語教育への支援

日本語教師の研修



中学校および高校日本語教師の研修活動

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-14】

二、日本語教育への支援



全国中学生・高校生日本語スピーチコンテスト

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-15】

二、日本語教育への支援



日本語教師の模擬授業・公開授業

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-16】

二、日本語教育への支援

中国の高校代表の訪問団



中国の校長先生および教師が日本へ研修

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-17】

二、日本語教育への支援

(中国) 中等日本語研究会第八回総会 2018年



全国の校長先生、教員、生徒合わせて180名以上の規模

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-18】

二、日本語教育への支援

日本語教育についてのシンポジウム



テーマ——高校ゼロ基礎クラスの日本語教育

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-19】

二、日本語教育への支援

高校日本語カリキュラム及び日本留学の検討



各学校の校長先生や日本大学からの専門家

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-20】

二、日本語教育への支援

高校生向けの著書

・ 国語辞「同義語・同義語」の検索辞書



日本語近義詞・同義語辨析(附MP3)

伍福娟 (作者)

分享我的评价 | 分享

显示所有 格式和版本

平装

¥28.80

促销信息: 中文图书全场满100元减

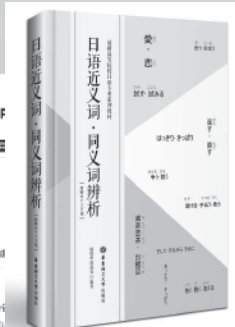
配送至: 上海普陀区 现在存货

送达日期: 今天(7月29日), 请在2小时内下单

(离你近期地区可在今天(7月29日)

自上海毛地区起1300家好评, 与它相似的书有: 日语

销售地区: 由亚马逊直接销售和发货。




『日本語類義語分析』 (2016年8月)

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-21】

二、日本語教育への支援
高校生向けの著書




『日本留学試験要点分析』（2017年9月）

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-22】

二、日本語教育への支援
高校生向けの著書



『大学入試日本語模擬問題』（2018年5月）

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-23】

二、日本語教育への支援

全国発行の雑誌



『中等日本語教育研究』（最新25期2018年12月）

（中国）中等日本語研究会

【スライド③-24】

三、高校生の留学への志向

【スライド③-25】

三、高校生の留学への志向

中国からの留学生の傾向

2018年5月1日現在、日本に滞在する留学生の数は
29.8万人に達している。

中国からの留学生は**11.4万人**で、一位となった。

ただし、日本語学校に在籍している生徒の中で、
もっとも多いのはベトナムの留学生で**3万人**もいる。

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-26】

三、高校生の留学への志向

日本語を学ぶ高校生の進学

	国内の大学 (日本語専攻)	国内の大学 (非日本語専攻)	日本留学
甘泉外国語中学	5%	74%	20%
全国高校の平均	1%	96%	2%

高校で日本語を学んでいる生徒は中国国内での進学
を選んだ理由は二つである。

- 1.日本の大学についての情報が少ない。
- 2.進学の壁が高い。(EJUの成績が必要とか)

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-27】

三、高校生の留学への志向

大学名 (国公立)	人数
大阪大学	7
筑波大学	5
京都大学	4
東京大学	3
一橋大学	3
東京工業大学	3
名古屋大学	2
九州大学	2
東京外国語大学	1
横浜国立大学	1

甘泉外国語中学の
卒業生の留学進路
(1996年 - 2018年)

赤い枠で表示されているのは「海外指定校推薦」か「現地入試」が実施されている大学

大学によって、全学部か一部の学部が海外募集

大学名 (私立)	人数
立命館アジア	
太平洋大学	100
竜谷大学	71
城西国際大学	41
早稲田大学	17
同志社大学	13
桜美林大学	9
創価大学	7
慶応義塾大学	6
明治大学	6
立教大学	3
上智大学	3
学習院大学	3
法政大学	2
立命館大学	2
中央大学	2
東京理科大学	1
関西大学	1
関西学院大学	1
武蔵野大学	1
大阪経済法科大学	1
日本大学	1

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-28】

三、高校生の留学への志向

日本語を履修する生徒が関心を持つ専門

1	経済、経営など
2	教育、社会学、異文化交流など
3	芸術(音楽、美術など)
4	工学、理学、農学、医学など
5	法律、建築など
6	文学など

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-29】

三、 高校生の留学への志向
中国の高校代表が日本へ



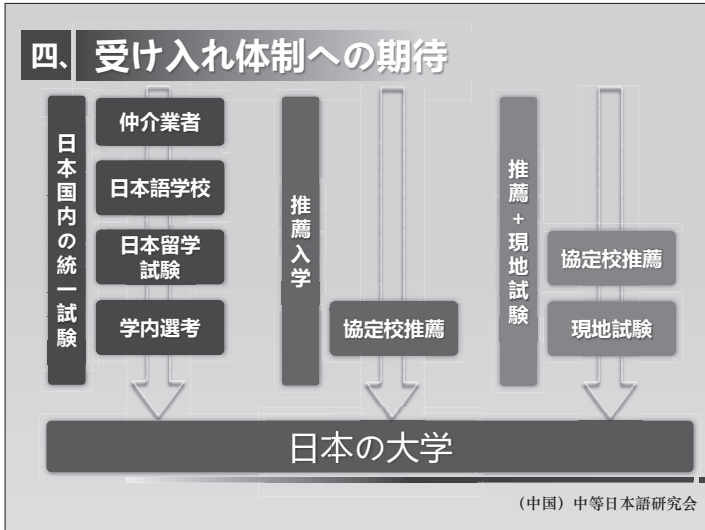
夏休みに中国の高校生が日本へ見学

(中国) 中等日本語研究会

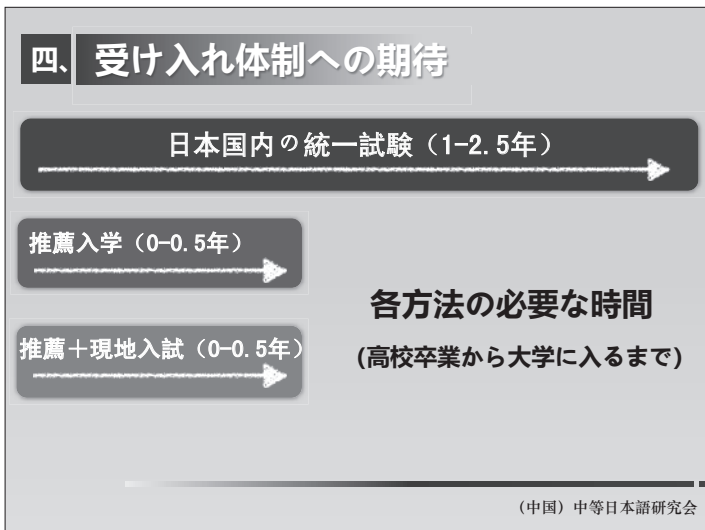
【スライド③-30】

**四、 大学の受け入れ体制
への期待**

【スライド③-31】



【スライド③-32】



【スライド③-33】

四、受け入れ体制への期待 (受験生の立場)		国内統一試験	推薦入学	推薦 + 現地入試
長所		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国公立大学が受験できる 2. 選択が多い 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 費用が低い 2. 時間が短い 3. 難易度が低い 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国公立大学が受験できる 2. 選択が多い 3. 費用が低い
	短所	<ol style="list-style-type: none"> 1. 費用が高い 2. 時間が長い 3. 難易度が高い 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私立大学しか受験できない 2. 選択が少ない 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 難易度が高い

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-34】

四、受け入れ体制への期待 (日本の大学の立場)		国内統一試験	推薦入学	推薦 + 現地入試
長所		<ol style="list-style-type: none"> 1. 手続きが簡単 2. 同じ時間帯で行う 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宣伝効果が高い 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 応募者数が多い 2. 宣伝効果が高い 3. 優秀な現役生
	短所	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宣伝が難しい 2. 競争が激しい 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の質や低い 	<ol style="list-style-type: none"> 1. コストが高い

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-35】

四、受け入れ体制への期待

出前講義を行う



大阪市立大学の教授先生方が出前講義

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-36】

四、受け入れ体制への期待

説明会を行う



早稲田大学の上海での進学説明会

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-37】

四、受け入れ体制への期待

「現地入試」の規模を拡大し、体制を整える



現在20校以上の日本の大学が中国での現地入試を実施、あるいは検討をしている。

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-38】

四、受け入れ体制への期待

「現地入試」の問題点

1. 募集範囲を「指定校」に絞らないと中国の法律に触る恐れがある。
2. 仲介業者に手数料を取られた挙句、試験に紹介してくれる生徒の質が良くない。
3. 日本語を第一外国語として学んでいる生徒が対象から外されたことが多い。

(中国) 中等日本語研究会

【スライド③-39】



以上
ありがとうございます

(中国) 中等日本語研究会 秘書長 郭侃亮